



自由人 吉村先生安らかに…。

柴田 仁 (音楽評論家)

タなものにヘタといったは相手は怒る／というわけです。

しかし、吉村先生の批評では文章の最後のところに、それこそ蜂の一刺しのような辛辣なものがあって、先生自身は相手の怒るのを平気で「ホントのこと」をいっていられた気がします。

吉村先生のお葬式にいったとき、だれから「次は君の番やぞ／＼」といわれました。これもホントのことをいってくれたものです。関西の音楽評論の世界では吉村先生が永年、最長老でいられたのですが、吉村先生が亡くなると、私が最年長者になったわけです。でも吉村先生と私の間の差は相当大きなあたりがあります。先に一回り上といいましたが、ここであってるのは年齢のことではありません。音楽評論のキャリアの上でのことです。

私が吉村先生のお書きになったものを、はじめて読んだのは中学生(旧制)のころだったと思います。音楽雑誌で、吉村先生の名を知り、同じ関西にいられる方だと知ったのです。現在と違って音楽評論などという仕事をなりわいとされている人は少なかったと思います。そのころ雑誌で書いておられた方で菌ごたえのあるものをお書きの方は

ことしのブルー・メール賞選考会のあと、吉村先生と2人で元町の方に向かって歩いていきました。長身で、足の長い吉村先生は、お年を感じさせない歩きぶりで、大またでサッサと歩いて行かれるのでした。先生より一回りも若い私がヨタヨタ、ヨタヨタについて歩いているような劣等感さえおぼえました。元町の手前で、先生は元町へよってくるといわれ、私はサンチカの本屋で見つけておいた本を買いにいくのでお別れしました。先生はまだ、お茶でものみながら駄弁りたいご様子だったのに、急いで別れてしまったのを、いまになって悔んでいるあります。

先生の駄弁(だべ)りを聞いているのは実に楽しくて、大好きでした。あちこちで話されるためでしょう、くりかえして聞くお話も多いのですが、人生の真理をついたようなことばもとび出します。私の友人がいつも吉村先生のことばを思い出しては「名言やナ／＼」と感心しているのに「人生は誤解と錯覚で成りたつとるんや」というのがあります。繰り返し聞いたことばの一つです。私たちの仕事に関係したものの一つは「本当のことをいわれたら、人間は怒るで／＼ハゲの奴にハゲいうてみ、怒りよるやろが…」ということばです。ピアノのへ



左から田原富子さん、横井和子さん、吉村一夫先生と筆者

もう故人になられました。山根銀二氏で、この人を尊敬していました。洗練されたものを感じていた野村光一氏などありましたが、吉村先生はやはり身近かで、憧れのようなものを持っていました。

音楽を聞く耳というのは、当り前のことですがキャリアがものをいうものです。そのことをいつも吉村先生から感じました。いろいろのコンクリールの審査や、オーディションのときに、吉村先生の耳はたしかで、的確な選択をされることをいつも感じていました。音楽評論を始めると、とかく若いときは背のびして、斬って斬って、斬りまくるといった風です。吉村先生も、亡くなる一週間前に、ピアニスト横井和子さん芸術賞受賞の記念パーティであいさつされたとき、「若気のいたりで」ズバリと横井和子さんを批評してのけてしまった……と昔をふりかえっておられました。しかし、

吉村先生の耳はいつも実にたしかだったと、もういっぺんいいたいと思いますし、そのたしかさを支えていた先生の評論活動のキャリアーというものをよく見たいと思います。

朝比奈隆氏とは学生時代京大オーケストラでいっしょに音楽してられて、一方は指揮者、一方は評論家となられたのです。その昔ながらの親しさがあつてのことでしょう。吉村先生はいつも朝比奈氏のことを「ガサ」とか「ガサヤン」とか呼ばれていました。学生時代のニック・ネームかと思えます。恐らく、朝比奈氏のことを、そんなに気易く呼べる人は、一人か二人くらいしか残ってないのではないかという気がします。ある意味でライバルでもあつたでしょうが、もっとも、お互いによく知りあっている友人でもあつたのだと思います。ちょうど、朝比奈氏が渡欧中で不在だったとき亡くなったわけで、帰国して朝比奈氏も、どんなにか、おどろかれたことかと思うのです。

音楽評論を仕事とする人間は、おおむね自ら音楽をしない、あるいは演奏のできない人間が多いようです。日本の音楽評論界の未熟成期を示しているのかもわかりません。私もその演奏のできないデクのボウの一人ですが吉村先生はその点でもユニークな存在で、自らバイオリンやピオラを弾かれますし、レッスンもしておられたこともあるようです。

背も高くそびえたっておられました。演奏する評論家としてもそびえ立っておられました。きつと耳のたしかさも、演奏経験という他にない強味がものいってたのかも知れませんが、大好きな吉村先生、自由人吉村先生安らかに！

国際文化交流を

ユニバーシアードフェスティバルで

□出席者□

宮岡 寿雄〈神戸市助役〉

妹尾 美智子〈神戸ユニバーシアード推進協議会文化部会長〉

佐野 漣箕〈神戸新聞厚生事業団理事長〉

新谷 琇紀〈彫刻家〉

谷林 正紹〈関西学生オーケストラフェスティバル実行委員長神戸大学三回生〉

— 今夏、8月24日から9月4日迄'85ユニバーシアード神戸大会が開かれますが、スポーツの祭典とともに、文化の祭典、「ユニバーシアードフェスティバル」が、「愛」をテーマに5月16日から9月5日までの113日間、神戸の街の各所で盛りだくさんの内容でくり広げられます。

今回はこの文化行事に関りの深い方々にお集まりいただき、自由で夢のあるお話をお願いしたいと思います。

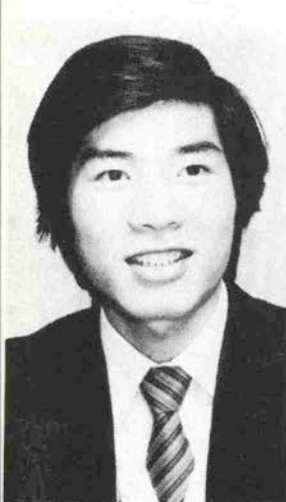
★多彩に、豊かにくり広げられるフェスティバル

宮岡 ユニバーシアードというのは、本来、スポーツがメインのイベントなのですが、2年前のカナダ、エドモントン大会より、スポーツに加えてもっと文化的な要素をとり入れたらという方向が生まれてきました。今年の神戸大会では、妹尾さんに中心になっていただいて、文

化面を幅広くとりあげて、一つの柱にしようということ
で、現在、着実にその準備が進んでいるわけです。

つまり、ユニバーシアード神戸大会に関連する文化面
でのイベント群が大会の開催される100日前の5月16日か
ら9月5日まで113日間、神戸の各所で開かれ、ますます
盛り上っていくわけです。これらをスポーツの祭典、ユニ
バーシアード神戸大会に対して、文化の祭典として、「ユ
ニバーシアードフェスティバル」と名づけられています。
今年、グリーンエキスポ'85、ユニバーシアード神戸
大会、これを彩るユニバーシアードフェスティバルと、
日本全国から世界からと大きなふれあいの輪が広がって
いこうとしているわけです。

先日、私も東京へ行き、60カ国の大使館の方々に
集まっていたら、ユニバーシアードスポーツ大会を



谷林 正紹 さん



新谷 瑛紀 さん



佐野 達実 さん



宮岡 寿雄 さん



妹尾美智子 さん

メインに、フェスティバルをサブ的にご説明したんですが、先方の反応はむしろ文化面についての関心が強かったですね。今回の神戸大会では、154カ国に招請状を出しているんですが、その中で人口が100万人未満の国が50カ国近くあるんです。一方、アメリカやソ連のような2億4、5千万人の国とそれらの国々とは、スポーツで競い合ったら、まず人口の差のために、歴然とした力の差ができてしまう可能性が高い。けれども、文化面での競い合いなら、それぞれ、民族と独自の文化を当然ながらもっているわけですから、これは大変面白いアピールが生まれるんですね。だから、各国とも文化面で日本にアピールしたいという気持ちが大きいんですよ。

私は、カナダで初めてトライした企画であり、神戸は2度目のものだから、今回のユニバーシアードフェスティバルはエドモントンとは比較にならない、いいものと期待しております。

妹尾 エドモントン大会のときに、次には神戸で行なうからという前提があって、私の方で何かの形で文化的な面での参加のお誘いがありまして、民踊の人が90人、エドモントンのユニバーシアード大会の文化行事に参加したわけなんです。実際に、私もエドモントンへ行行って感じたのは、ユニバーシアードというのは学生のオリンピックという競技の方が前面におしだされていて、文化行事をすすんでなさってる方々が、陰で非常にしんどい思いをしているという点です。どうも競技の方と文化行事とが、うまく噛みあわない、何かにつけ文化面がおさえつけられていて、ぎくしゃくしゅくしながら大会が終ったという感じでした。今回、私が文化部会の部長を務めさせていただくわけですが、エドモントンのときでも、女性の方が担当されていて、大変ほやいておられたのを見えていますから、私もこの大役をお引き上げる前から、文化行事というのは大変なんだなあ、と思っておりました。エドモントンのとき、民踊の人たちを連れて会場へいくと、観客はちらほらいるだけで、ステー

ジも音響設備も立派なものがあるのに十分使いこなせず、もたつくだけで、何だか、勝手に踊ってくれ、という感じ、次の場所はちようどさんちか広場のような商店街の真中で、踊りが始まると、何ごとかと、通行人たちが集まってきたんですね。それにしても、日本のユニバーシアード大会でも、きつと大変なことになるだろうと、当初は、まるで他人事のように考えていました。

最初に、市民の支援団体である推進協議会ができ、文化部会の担当となり、波にもまれてるうちに少しずつ形らしいものができてきました。日本では様々な芸術祭とか、神戸まつりもあり、多くのまつりや文化的イベントにあふれているわけですが、ユニバーシアードフェスティバルでは、他の芸術祭と比べてちがう色を出したいと思っています。

1つは、芸術文化の競争の場として、当然ながら国際性をうちだし、第2には、若い人たちが参加しているフェスティバルなんだというこの2点を目玉にしたいと考えています。

新谷 今までのお話で、何故スポーツの祭典に文化をとり入れることが必要なのか、ようやくわかりました。一般の人たちは、スポーツの祭典というと、オリンピックがあつて、学生のオリンピックといわれるユニバーシアードは、オリンピックに比較すると、レコードの上でも規模の面でもオリンピックにおよばない、あんまり興味をそそるものを感じていないと思うんです。しかし、ユニバーシアードがスポーツ、プラス、文化の2面をもつことで非常に親しみやすく、選ばれたスポーツマンだけの大会でなく、一緒に参加できる祭典として行なわれる、それが、神戸という街であり、この街に、世界各国の若者が一堂に会するわけだから、ここに生まれる交流の輪こそ大切にしたいですね。それが「アモーレ」ですよ。

「愛」は万国共通の言葉です。愛をテーマにユニバーシアード大会がスポーツだけでなく、写真やフルートなどコンクールで競い合うというのは大変素晴らしいことだ

と思うんですが、私はさらに一歩進めてできれば「カルチャー・オリンピック」のような形で、すべての芸術のコンクールが国際級で神戸で行なわれるとなればずいぶん面白と思うんですよ。それに、今回は写真・フルートのコンクールだけがあつて彫刻のコンクールがないのは、非常に残念ですね。搬入とか大がかりな装置が必要なのは彫刻には必須のことですけど。須磨離宮ビエンナーレとか、これだけ彫刻に力を入れている街は日本でも見あたりませんから、世界の若者が神戸へ来て、神戸の街角のどこへいっても彫刻があり、ヒューマンで感性豊かな街だと知ってもらうことだと思っていますね。

佐野 宮岡助役は、ポートピア81の時には事務局長をされ、大成功を収めましたし、妹尾さんは毎年の神戸まつりの委員長されて、神戸で行なうイベントはみんな成功しているんですね。何故かなと考えると、行きつく所はわかりきったことなだけで、やっぱり神戸の風土、山、海、そして、そこに住んでいる人も含めた環境にあるんだと思うんですよ。ペートーベンの森、ダ・ビンチの村を歩くと、ああ、やっぱりそういう風土なんだなあと感じるのと同じように、神戸にも半歩進んだスマートなものがあるんだと思いますね。今度のユニバーシアード大会でもおそらく神戸らしさを發揮して大成功に終ると思います、フェスティバルの方で妹尾先生の言われたように、何といっても国際性が大きな特色になると思います。「ふれあい広場」や「国際親善の夕べ」など、国際都市神戸の評価が一段と高まるだろうと期待しています。

谷林 7月13日に、神戸文化ホールで「関西学生オーケストラフェスティバル」が催されます。これもユニバーシアードフェスティバルの一環として行なわれるんですよ。今回、神戸市民文化振興財団よりの依頼があり、私がいかにこの実行委員長を務めることになりました。ユニバーシアードは神戸が中心なんです、神戸だけでなく、もっと学生たちのパワーを集めて大きいものにしよう

うということ、関西の主要大学が集まりました。私の在籍している神戸大学をはじめ甲南大学、関学、大阪市大、神戸外大、近畿大学、同志社大学、立命館大学など、関西の14の大学がメンバーになっていて、学生だけで運営しているわけです。私はビオラが担当で、2月に本格的に練習に入ったばかりです。

佐野 谷林君たちのチームは、関西でもベストメンバーぞろい、素晴らしい演奏が期待できますね。ユニバーシアードがあるからできるんですし、これを機に毎年こうした演奏会を定期的に続けていってもらいたいですね。すると、学生パワーも生まれ、大変、素晴らしい名物になりますよ。

★フロム・KOBÉ、ツウ・KOBÉの文化づくりを

妹尾 ユニバーシアードフュスティブルでは、大会100日前をオープニングに決定したんですが、これがちょうど神戸まつりの前日、5月16日にあたります。この日から113日間で、いろんな催しが市内の各所でくりひろげられるんです。行事の中には、主催行事と共催行事、そして、協賛行事の3つがあるんですが、主催行事の中で特に大会のテーマになっている「愛」と、国際交流と、さらに若者たちが主役ということを考えると、いちばん大きいのは「ふれあい広場」ですね。選手村ができる研究学園都市の駅前と須磨バティオ、さんちかホール、神戸駅前のサンこうべ、カスケードひろば、大丸前オアシ

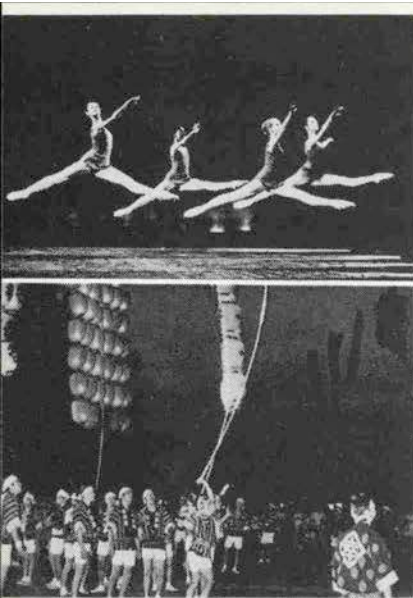
スロード、ポートアイランドの市民広場など市内6カ所で、8月14日から行なわれます。たとえば、みこしや獅子舞などの郷土芸能、民謡、フォークダンスなどの踊り、民謡、ロック、ジャズなどの音楽、武道やエアロビクスなどのスポーツデモンストラーションです。これに世界各国の民族芸能も加わって大変、賑やかな楽しいものになります。6カ所のうち、大丸前は土曜日曜だけとか、場所によって形は異なるんですが、私どもとしては、まず舞台装置をつくり、あるときには外国の民族舞踊団の方が出演していて日本の出演者が観客として鑑賞する、その逆もあって、ステージ上の一方通行で終るのではなく、お互いに高揚しあう、本当の親善をはかりたいと思ってるんですよ。

現在、市民のいろんなグループや団体の出演を募集しているんですが、出演される方々のいろんな希望をできるだけ反映できる体制づくりを考えていて、これからそのプログラムづくりに入る予定です。

宮岡 ふれあい広場は、テーマそのものを実現した広場なんです。

妹尾 そうです。だから、私どもにとって名前の通り、ふれあいの場づくりなんです。5月のオープニングイベントから始まって、神戸まつり、国際親善の夕べ、シャノンコンクール、童謡コンクール、6月には、国際交流シンポジウム、神戸児童百景絵画展、市民綱引大会、アフリカ映画祭、ユニセフチャリティーキャンペーン、7月のギターコンサート、KOBÉパリア祭、それから、谷林さんたちによる関西学生オーケストラフュスティブルが神戸文化ホールで催されます。この月はサンフランシスコパレエ団もあり、音楽も多彩なんです。なかでも「第一回神戸国際フルートコンクール」は、日本で初めての企画でもあり、神戸において国際的な音楽のコンクールが行なわれることになったわけですからとても期待されます。

ユニバーシアード神戸大会の本番とでもいうべき8月



には、さきほどの「ふれあい広場」「世界民族芸能フェスティバル」などが行なわれますが、8月23日の大会開会の前夜祭には、大倉山公園のグラウンドとステージを使って「日本のまつりイン神戸」が賑やかに催されます。

宮岡 今回の大会のように、街づくりとイベントがうまく噛み合っている場合は都市の活性化につながっていくもののようにです。今年、行なわれた文化行事、とりわけ、各種のコンクールなどは、ユニバーシアードの残した財物として、恒例化するとか、形の残るものにしていきたいですね。

妹尾 フルートコンクールは定期的に開催されることが決定していますし、シャンソン、童謡などは創作と歌の発表があつて、本邦初公開ですから、きつと後々にまで何らかの形で残る性格のものばかりですよ。シャンソンコンクール、パリ祭、童謡コンクールなどは全国で初めてのスタイルでもあり、これだけの内容だから、児童から熟年まで実に幅広い層にアピールできるものはかつてありません。

新谷 地球はせまくなったなあと思いますね。神戸でパリ祭なんだから、大変面白い。それだけに私は神戸が、とつときに冷たい街になってほしくないですね。

谷林 いろんな分野の人が神戸でいろんな活動をするようになるので、厚みのある素晴らしい雰囲気になりますね。

佐野 つまるところは、フロム・KOBÉ、ツー・KOBÉですよ。神戸という街を背景にアーティストが生まれて、世界へどんどん出ていき、そして、神戸へとフィードバックしていく。神戸はそんな街であるべきですよ。

★アカデミアによって、芸術家の育成の場づくりを

宮岡 21世紀へむけて、数々のイベントを操作して活性化をはかっていくわけですが、街づくりができる2つの側面、つまり経済面、文化面の2つを考えると、これからはより文化的な方向、いわば精神面、心の問題になっ

てくるように思いますね。しかし、これについては手本になるものがないですから、難しい面もあります。神戸だからこその、いい方向をさがしていきたいですね。

妹尾 香り高き方向へとめざしたいですね。私は今回、フェスティバルを手がけてみて、文化の素晴らしさと難しさをしみじみと感じております。大会後の施設の利用も市民に親しめるものだと思います。

新谷 今年、ユニバーシアード大会を軸として、多くのコンクールやイベントが催されるわけですから、ここに生まれる芸術的な活動のパワーというには凄いものがあると思います。それで、私の提案なんです、芸術を志す人たちのための公共的なアカデミアを設けたらと思うんです。イタリアでは20州のうち、必ず主要な所にはアカデミアという行政による専門学校があつて、ここでアーティストのタマゴたちを養成しているんですよ。これは学校であると同時に各分野の研究機関であつて非常に水準が高く、それぞれ土地と風土にあった特色を出しているんです。神戸という街と神戸のもっているロケーションを考えると、芸術のあらゆる分野に対して特色を出すのに大変いい条件がそろっていると思います。

そこで私の考えているアカデミアというのは、大学では教えることのできない部分をおぎなう専門学校なんです。たとえばアマチュアから、アルティザン（職人）そして、アーティストという段階のうち、人間の感性を磨く過程ですね。職人レベルに入る前の人間的な芸術へ向う源流を体験させる過程を公共の学校できたえていくわけですよ。するとファッションにしろ、絵画にしろ、神戸らしい、本物の感性豊かなアーティストが自然と生まれてきます。

妹尾さんの言われる香り高い文化づくりを実現させるのは、発表の場づくりと同時に育成の場づくりだとも思っています。5月16日を皮きりに、そうした可能性に溢れる若きアーティストたちが、どんなうぶ声をあげていてほしいですね。（ブラン・ドウ・ブランにて）

田崎真珠株式会社

取締役社長 田崎 俊作
神戸市中央区港島中町 6-3-2
TEL (078) 302-3321

株式会社ペニヤ

取締役社長 松谷 富士男
神戸市中央区三宮町 1 丁目 10-1
TEL (078) 332-3155

株式会社南インターナショナル

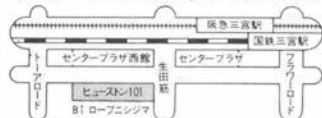
代表取締役 南 泰吉
神戸市中央区浜辺通 5 丁目 1-14
神戸 商工貿易センタービル 1701
TEL (078) 232-1301



美しいものを
美しいままリフレッシュ。



ウール、シルク、きもの…美しさを演出するファッションに磨きをかけます。



神戸市中央区三宮町2丁目10-7 ヒューストン101

Phone.(078)332-2440

ハイセンスな紳士服で
最高のおしゃれを



三恵洋服店

神戸・元町4丁目 ☎(078)341-7290

経済ポケット ジャーナル

★フアミリア社長に

岡崎晴彦専務が昇格
創業三十五周年を迎えた
ベビー、子供服大手のフア
ミリアのトップ人事が四月
から交代する。

岡崎晴彦専務が社長昇格
坂野通夫社長、坂野惇子副
社長はそれぞれ代表権をも
つ会長、副会長に就任する
同社は坂野夫妻の「おし
どり経営」で業績を伸ばし
てきたが、在任期間が約三
十年間と長く、創業三十五
周年を契機に若返りを図っ
たもの。



岡崎 晴彦氏

岡崎 晴彦氏（おかしき・はるひこ）
三十九年三月甲南大経済学部卒、三
和銀行、東京計器を経て四十六年フ
アミリア入社、五十二年取締役、五
十五年専務。四十三歳。神戸市出身。

★六甲バター社長に

塚本哲夫氏
六甲バターは塚本信男社



長が代表権のある会長に退



塚本 哲夫氏、後任社
長に塚本哲
夫副社長が
昇格する。

同社は現在チーズ業界で
第二位の地位で、ナッツ類
などへの多角化も図ってい
る。人事の新旧交代で若返
りを狙うことになる。

塚本哲夫氏は前社長の長
男、五十四年から副社長を
務めている。

塚本 哲夫氏（つかもと・てつお）
三十九年三月関学大商学部卒、同年
六甲バター入社。五十二年常務五
十四年三月から副社長。四十二歳。神
戸市出身。

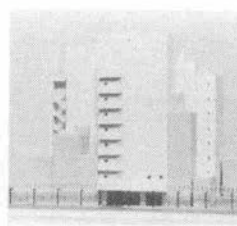
★Seiden（一星電社）

本社が四月に三宮移転、
新店増築は今秋完成
顧客サービスの充実を図
るため、Seiden本社
が住吉からセンタープラザ
西館7Fに四月一日をもっ
て移転する。新しく「ラビ
ングハウス」が設けられ、
ブランド、引越しの相談

などサービス面が強化され
ることになる。

また今秋完成を目指して
増築中の三宮新本店は、約
九百九十平方メートルの敷地に地
下二階、地上八階建て、延
べ八千平方メートル、ニューメデ
ィアを導入し、新しい情報
を提供する。

さらに商品構成を充実さ
せ、人と人とのふれ合いを
重視した専門店経営を打ち



完成が待たれる

出す方針のようだ。

★小曽根真造氏死去

陸船用ディーゼル機関や
公害防止機器の阪神内燃機

工業の小曽根真造氏（一
取締役相談役、元社長）が
二月二十日老衰のため死去
した。八十二歳。



小曽根 真造氏
同氏は昭
和六年に磯
阪神鉄工所
に入社。同
八年常務取締役、同十二年
専務を経て同十九年に社長
に就任。その後同社は阪神
内燃機工業株式会社と商号
変更、同四十九年には会長
職に就いた。「数々の業績
を残した偉人」と同社では
語っている。

ジャズピアノリスト、小曾
根真氏の父親でもある同氏
の社葬は中央区の西本願寺
別院（モダン寺）で、木下
吉治郎社長が葬儀委員長を
喪主は長男の有氏がつとめ
同二十日、しめやかに行わ
れた。

★KOBEOフィスレディ★

河合佳美さん（21）



昨春松蔭女子短大卒。出勤日が月水金
と週3日の「恵まれた環境」。休日にはテ
ニスやジャズダンスなどで過ごす。「そ
ろそろ花嫁修業もしようかな」。ライオ
ンズの合同事務局の中で灘ライオンズを
担当、20周年式典成功のために「女の細
腕」も発揮したようだ。男性は明朗で寛
容な人がタイプ。中央区能内町在住。

〈神戸灘ライオンズ
事務局〉

芸術と芸術 友情の輪を

朴 玄奎 (神戸二紀ソウル支部)
蔣 永柱 (神戸二紀ソウル支部)
高崎 研一郎 (二紀会兵庫県支部総務担当)
(通訳) 徐 進旻

——二月五日から六日間、'85三
周年記念神戸二紀展が開かれま
したが、韓国、フランス、シンガポ
ール、チュニジア、モロッコからの
作品も特別陳列されました。今日
は神戸二紀ソウル支部の三作家を
ゲストに、絵画を通して日韓交流
についてお話しをお願いします。

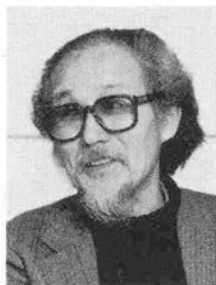
★国際交流の旗手、神戸二紀会

中西 まず神戸二紀と海外交流に
ついて少しお話ししましょう。き
っかけと言うと、神戸青年会議所
(J.C.)はハワイJ.C.と交流があ
るわけです。福岡J.C.、横浜J.C
もハワイJ.C.と交流があるので
が、神戸としては文化交流を前面
に押し出したいということで佐藤
さんにお話しがあった。結果とし
て、神戸二紀から約五十点の作品
を送って、ハワイで展覧会をやっ
たんです。

佐藤 ちょうど十年前ですね。

中西 それからは外国へ行って絵
画きと知り合いになると、神戸二
紀展へ出展して欲しいと声をかけ
るようになりましてね。で、モロ
ッコ、チュニジア、フランスから
出品してもらい、そうこうする内
にだんだんと熱が出て来ましてね
(笑)、月刊神戸っ子から賞金を頂
いて「アジア・アセアン賞」研修
賞を設けたんです。ヨーロッパだ
けではなく、近くて遠い国といわ
れる韓国へ研修旅行をしようとの
主旨からです。

私は徐支局長とは以前からおつ
き合いいただいておりましたが、
物見遊山の韓国旅行は意味がない
ので徐さんをお願いをして、おと



中西 勝さん



佐藤 廉さん



徐 進旻さん

とし韓国日報社の関係の百想記念
館館長のご紹介で、崔韓国水彩画
協会副会長をはじめ日韓の画家の
楽しい交流の夕べをもちました。

そのあと三十五点の作品を神戸
二紀展に送って来られた。初めは
五点で頼んでいたで、嬉しいや
ら、びっくりするやら(笑)。しか
し毎年送るのは難しいし、こちら
もいろいろと経費がかかりますの
で、崔さんをお願いをして、神戸
二紀会ソウル支部が結成されまし
た。

高崎 ただ単に神戸二紀会の展覧
会に終らせない国際交流という要
素が入って来たわけです。今まで
は規模が内輪だったのに、今や大
きくならうとしていると言えます
ね。これから先、これがどう広が
って行くか、楽しみでもあり、そ
れだけ責任も感じています。

中西 僕が一番気にするのは、内
輪の面倒も見てくれないのに、外
ばかりやっている、ということに
なることで、これは具合が悪い。
今のところ皆で盛り上げようとの
気運があり、嬉しいことです。

徐 中西先生のアイデアを中心
に皆が力を合わせてやって来まし
た。その過程ではとくに経費面で
いろいろ苦労がありました。が、苦
労のない実りはない。よかったな
と思っています。

佐藤 嬉しい苦労です。日本には

“肌”と“肌” による真の

中西 勝 (二紀会理事・兵庫県支部長)
佐藤 廉 (元町画廊)
徐 進昊 (韓国日報社神戸支局長)
鄭 燦門 (神戸二紀ソウル支部長)

二紀会以外に美術のいろんな会があります。神戸二紀会ぐらい国際的に大きな展覧会をやったところはないですね。今日お見えの三人の方は韓国で全国レベルで活躍されている方たちです。そういう方々を神戸二紀会という団体が受けている。神戸二紀会は、わっと国際的に口を開けているんです。これは美術史として記憶されたいけないし、今後とも推進して行かないと中西さんのこれまでの努力が無駄になります。

ソウルではアジア大会、オリンピックが開かれますが、何もスポーツだけではない。美術をはじめ文化交流がついて回っているんです。これを忘れてはいけません。

★肌と肌、心と心のふれ合い

朴 私 は四年前に初めて日本、東京に来ました。韓国の作家として日本の作家から学ぶところは多い



鄭 燦門 さん



朴 玄奎 さん



蔣 永柱 さん



高崎 研一郎 さん

と思います。時が経つにつれて驚きを感じています。今、韓国では若い人は外国へ出やすいのですが、皮相的にものを見て、簡単に机上の空論をし批評する者がいます。しかし私はそうではない。今日出席している三人は中堅作家ですが日本の作品に真剣に対応し、机上の空論の人たちに誤ちがあれば、それを是正するだけの気持ちがあります。

今朝、中西先生のお宅をお尋ねして、お話を聞いたり、アトリエを拝見したのですが、長年の蓄積を感じました。なるべく毎年、日本に来て、そういう空気を吸収したいですね。

韓国では自国の先輩画家の作品を見て、頭の中で考えるということが多いのですが、中西先生はじめ日本の画家は、ものを直かに見て、その中からいろんなものを発見して絵にしているから実に力強いものがある。日本ではそういう層が厚い。われわれとしては、韓国内の画家のいいところを早く発掘して、日本の皆さんのもっているいいところへ早く近づきたいですね。東南アジアに比較すると韓国の水準はかなり高いと自負していますが、まだまだ到らないところがあります。八十年代に入って海外との交流が活発になり、海外の作家との対話の輪が広がっています。現在、日本、アメリカ、フランスへもどんどんと地歩を固めています。とくに三十代から五十代が重きを占めています。

鄭 私 は日本は初めてです。神戸二紀会の方に限らず、いろんな方と話をすると、お互いに理解しようとして努力をされている感じを受けました。このたびの出版を通じて両国の親善が深まることを期待しています。



ふと気がつくと会場のレストランのテラスに純白の鳩が。暫し話を中断し全員が鳩に見入っていた。まさに日韓の“平和の使者”。蔣さんが早速、鳩と中西画伯をダブルさせてスケッチしたのがこの絵である。

Strong Peace!
中西勝光 大韓民国
1985.2 蔣永柱

今日、中西先生のお宅を訪問し、世界の幅のある芸術を吸収される姿を見てびっくりしました。今後、私もいい作品をつくって日韓交流の糧にしたいと思います。

蔣 私も初来日です。日本へ来て感じたことは、いろいろな人たちが、先輩後輩の礼儀を尽し、歩調を合わせながら堂々と歩みを進めていることで、素晴らしいことです。韓国と日本の関係、親善を深める使命感に燃えた皆さんの合唱団のような一糸乱れぬ歩みに対して、これからも、私たちの後輩に對して、お互いの欠点を補完しながら親善を深めさせるようにするのが、われわれの仕事だと思っています。

政治とか経済とかではなく、皮膚と皮膚、人情と人情との結びつきによって交流を深めて行けば、国際親善の先兵となるでしょう。

佐藤 今おっしゃったように、政治とか経済とかではないですね。心と心。心を中心に将来ともに友好を深めて行って欲しいですね。朴 それは芸術家の使命です。

★韓国で神戸二紀展を開こう

佐藤 高麗大学長の故・李馬銅先生は、パリと神戸で活躍している韓国の代表的な現代作家の鄭相和さんの仲人で、日本で言えば文化勲章に等しい賞をとった芸術家なんです。私が韓国へ行ったときに、こうおっしゃった。神戸の具象五人展をソウルでやって欲しいと。しかし実現しなかった。それを神戸二紀会がぜひとも実現して欲しいと思います。

蔣 それは李先生の遺言ですね。朴 実現されると思っています。神戸の作家の作品展を韓国で催していただきたいし、そのためには私た

ちも極力努力します。韓国にお出になったら隠れた韓国の素晴らしい文化をお見せしたいと思います。

中西 日本の文化は韓国からどんな来ていますから、韓国には本物がいっぱいある。真面目に謙虚につき合わないといけない。エコノミックアニマルと言われなかっためにも、心と心とのつき合いが一番大切です。僕らにはとくに視界で理解できる何かがありますね。

これは一番プリミティブな友好関係だと思うんです。

朴 大きな展覧会もいいですが、二人展、あるいは個展というかたちでもどんどん交流を進めて欲しいですね。そういう小刻みなことの方がやりやすいのではないですか。

高崎 韓国の作家との一番密接な触れ合いは作品を見るということですね。私の場合も作品を通して韓国への理解が深まって行きました。たとえばソウルの建物の屋根、流れるようなその形を見て、韓国の芸術の原点をもっとと理解して、自分なりの作品を創り上げる。それがお互いの交流になるのだなあと思っています。

佐藤 本当に親身な交流をして行きたいですね。

鄭 今日のお話、韓国へ帰ってぜひ伝えたいと思います。

(トウールドールにて)



1985
NEW COLLECTION



ALPHA CUBIC
lunettes



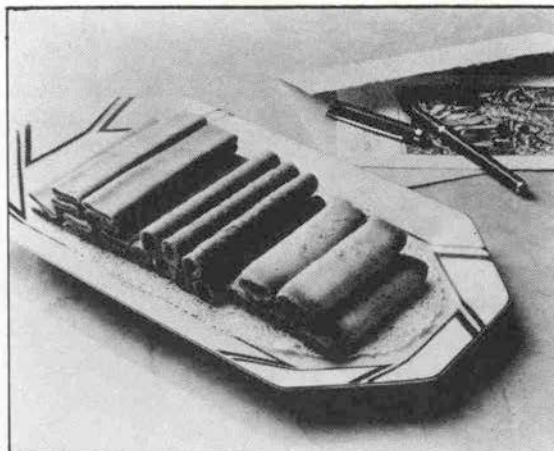
No.22005
¥19,000

シンプルな
ラインを強調する、
ロングプロポーション
機能的な今春のコレクション。
爽やかな田園の風が吹き抜ける。



神戸眼鏡院

元町店・元町3丁目 ☎(321)1212代表
三宮店・さんちカタウン ☎(391)1874~5



Juehheim's

The soft and light butter
biscuits are made
in Japan

彩りゆたかなバターの香り

シラーロッケン

フレッシュバターと卵をたっぷりつかい、
「巻き毛」のようにクルクル巻いて
焼きあげた軽なお菓子。5種類の
異なった風味が楽しめます。

ユ-ハイム

■神戸っ子ベストドレッサーが語る マイ・ファッション&コウベファッション 気品が自然に： 砂田泰子

(衆議院議員・
砂田重氏夫人)

取材当日は、連続してのパーティ出席、夕方から飛行機で東京に向かう過密スケジュール。御主人が砂田重氏衆議院議員。当然人前に顔をみせる機会も多い。「でもこれといって気を遣ったおしゃれなんかしないんですよ。場所柄を考えるぐらいで……。もうオーソドックスなものばかりですね」

謙遜ばかりが口をついてでる。でもその語り口が上品

で耳に心地よい。生まれは神戸だが、物心つく前に父親の仕事の関係で横浜から東京へと引越した。二十二年間の東京生活で標準語が身についている。言葉もひととなりであるし、身だしなみといえる。

東京の関係でおつきあいはじめた渋谷のブティックのオーナーとは二十年来の知己。シルクのドレスなどオーダーメイドはこの店一辺倒だそう。「その女性^{かた}は七十歳を過ぎても現役のデザイナー。とてもセンスがよく大のお気に入りなんですよ」

今日のお召物は神戸で購入の黒のベルベットスーツ。昔から黒、グレイ、ブルー系が多い。「神戸のファッションも含めて今は全国的に共通みたいね」。

「ともかく気を遣わないんですよ」とおっしゃりながら、自分のセンスをキチンと認識したファーストレディでいらつしやるようだ。



「若いときから黒、グレイ、ブルー系が多いのよ」と一貫したファッションポリシー。

■神戸っ子ベストドレッサーが語る

マイ・ファッション＆コウベファッション

生涯ファッション

佐藤 廉
〈元町画廊〉

モノを見抜く眼力が命の画商。ファッションに関する指摘も一言言っているらしい。

「よそに行くために服を着がえるなんて駄目。服装は日常（普段）です。それに外見だけでなく内面も伴ってないとハナシにならない。そして大切なことは生まれてから死ぬまでファッションだということだ。」

服装だけでなく、食事、インテリア、芸術その他生活

全般に渡り、一生涯感覚を磨く努力をしない、と力説される。御自分のおしゃれに関しては、

「僕は昔から自分の服は自分で選んでいるんだ。一点でも意に沿わないものを身につけると一日気が重いね。」

人間はね、誰でも顔に色がある。換言すればその人の筋だ。いい店、いい店員はその人の筋を見つけて品物を選び出している。それがプロだろう。」

質感のいいジャケットの下に、ベルサーチのワイシャツ、ネクタイはベージュの無地。コーデュロイパンツに黒のブーツ。佐藤さんの粋人ぶりはつとに有名である。

「神戸は異文化を抜群の実力で消化してきた。現代の神戸人への注文は、地理や歴史を踏まえた神戸ファッションを目ざして欲しいということだよ。」

普段から審美眼を養うことだ、と強調する佐藤さんにはまだまだ神戸ファッションの御意見番であってほしい



「普段から審美眼を磨くこと。その努力がおしゃれ」と画商らしい発言。（元町画廊）にて

■神戸っ子ベストドレッサーが語る

マイ・フアツシヨン&コウ・ペフアツシヨン

粹な変哲のなさ

野澤源二郎 (株ノザワ代表取締役副社長)

「スーツは圧倒的にグレー系が多いし、シャツはブルー地に白いカラーとカフスのクレリックシャツがほとんどだね。ネクタイも黒や紺等の無地が好きだから、オーソドックスすぎて、取材にならないんじゃない? 最も自分ではおしゃれだと思ってるけどね(笑)」とのつけから言われた。しかし、いつも同じような服装で、その実靴からシャツ、ネクタイに至る迄毎日着替えているというの

は、数を持っていないとできないし、年季が入っているからこそ様になる。「親父(故野澤幸三郎氏)も当時としてはシャレ者でしたし、兄貴(同太一郎氏)や家内の父親(岡崎忠氏)もおしゃれな人ですから、いつのまにか影響されていたんでしょね」

おしゃれな人に共通しているのは、手入れが上手なこと。野澤氏もどんなに酔っ払って帰っても、靴には木型を入れ、上着はちゃんとハンガーに掛けて寝るそうだ。ブラッシング、ズボンのプレス、靴磨きも奥さま任せではなく自分でする。手入れが良いので当然長持ちもする。「本当はケチなのかも(笑)でも、私の周囲の神戸の男性は皆同じようなタイプが多いね。地味だけどそれなりに自分のスタイルを持っている、というような」男性の場合はおしゃれ―身嗜みの要素が強い。「白の麻のズーツに白い靴、なんて格好を一度してみたいねえ(笑)」



昨年創立70周年を迎えた株ノザワ本社で。隙のない着こなしはさすがだ。

■神戸っ子ベストドレッサーが語る

マイ・ファツシヨン&コウベファツシヨン

遊び心大切だネ。

CHICHUNGWEN

〈インテリア&建築デザイナー〉

一八四センチの長身、甘いマスク、ずば抜けたファツシオンセンス——人中にあつて否が応でも目立ってしまう。それもそのはず、ウエンさんは学生時代に、当時全盛だったあのVANでショー専門のモデルとして全国を回った経験がある。最もファツシオンは好きでも、モデルという仕事に馴染めなかったため四年で辞め、その後一念発起してニューヨークへ渡りインテリアと建築を学

んだ。NYの勤務先は女性ボスが大変お洒落で、彼も大いに感化された。日本女性に比べて皆着こなしにちよつとした工夫を凝らす。九年間生活したNYは今もウエンさんにとって一番魅力のある街。タキシードでドレスアップしても、履き古したジーンズでドレスダウンしても、それぞれに相応しいオケージョンがある。

ウエンさんは、美味しいものの食べ歩きや映画鑑賞と同じようにファツシオンも大好き。どんな色も抵抗なく着こなす。国産はサイズが合わないのが、アルマーニやベルサーチ等イタリア製が多い。北野町の「バルバス」も二年前に帰国してからよく覗いている。現在独立してデザイン事務所を開いているが、英語が話せるので外人からの注文も多い。因みにウエンさんは三十七歳の独身、世間では「中年」と呼ばれる年代だが、「気持ち若く」をモットーにベントで走り去った姿は颯爽としている。



上質の綿シャツはワイドカラー。バルバスの綿ジャケットのストライプと同じブルーグリーンが入ったベルサーチの黄色いネクタイを組み合わせるといってお洒落がり。

■神戸っ子ベストドレッサーが語る

マイ・ファッション&コウペファッション

かるーいエレガンス

篠原順子 (スチリスト)

自分がまず気分よく爽やかに過ごしたい。身も心も快適に過ごせること。それが篠原さんのファッション。一昨年からシェイプアップしようと始めた水泳も、体を動かすと同時にメンタルな要素が大きい。

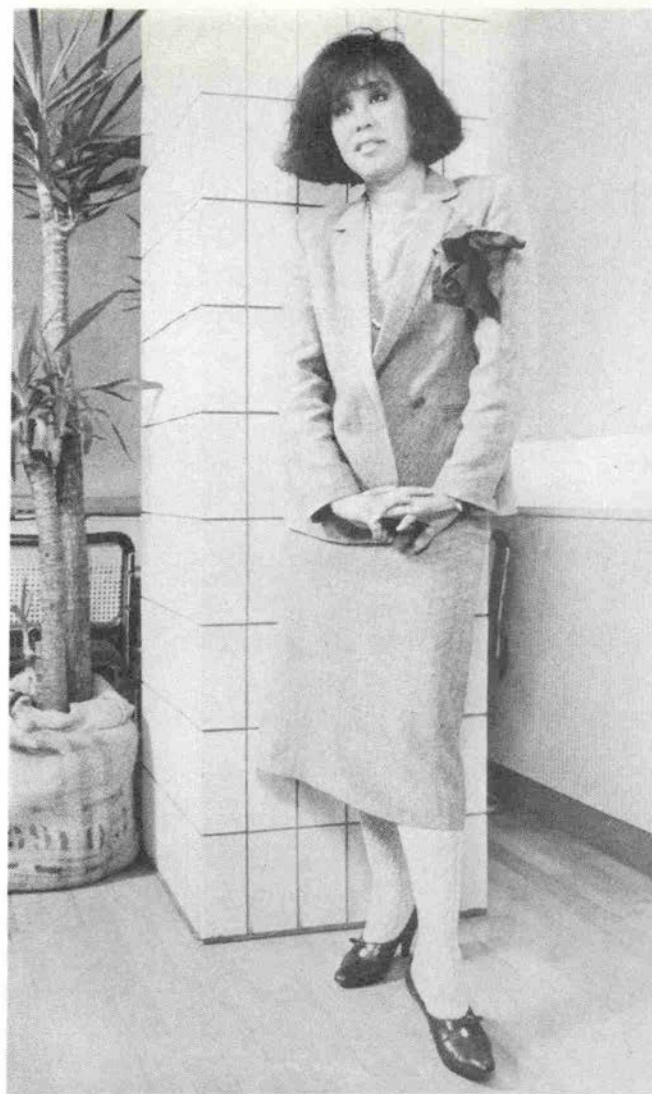
「外見はベーシックでいいと思うんです。トレンドイバやりで、すぐ流行を追う人が多いけど、その人のもっている内面性についていけないんですね。自然にしみだし

たお洒落感覚が板について、さまになっていければそれでいいと思いますね」

紺やオリブ色のシルクのポケットチーフを無造作に胸にさしこむ、その色あいひとつで、一つの服が10通りにも変化する、軽くて今風、軽さのあるエレガンスに今は夢中。遊びごころといいながらも、ほどよく下品で、おかしげに自分をつくってみる日もあるとか。

気分によってファッションも自在の^{変化}、すてきな気分づくりが彼女の着こなし学。

「神戸らしさって何なのかな、と考えたら、やっぱり今は北野町界隈のイメージですね。ファッショントウンは生地でいえば真つさら、使いこなして古くなると味わいがでてる。それが個性です。10年後、あの人工島に、北野のような個性ができてくるのが楽しみです。マンハッタン島のように深夜も人で賑わっていて…ね」



＜三宮・G線にて＞篠原さん

■神戸っ子ベストドレッサーが語る
マイ・ファッション&コウ・ベファッション

大人っぽくセクシー 内海夏子・涼子・映子

〈フォトグラファー〉

〈民族工芸学専攻
大学院学生〉

〈薬剤師〉

「神戸のファッションってすごくコンサヴァティブ。いい意味でお嬢さんっぽいですね。東京と比べておとなしすぎるんじゃないかしら。決して遅れてるってわけじゃないくて…」と姉妹が声を揃えて力説する。それでは、それぞれのファッションポリシーは、とたずねると「いつもセクシーであること。たとえそれが写真を撮っている時であってもね。洋服も、どんなにヒラヒラした

ものでもズタ袋みたいな服であっても、セクシーさを感じさせるような着こなしを心がけています」と話すのは長女の夏子さん。さすがに雰囲気は大人っぽく色っぽい。次女の涼子さんは「カチツとしたワンピースやスーツより、着やすく動きやすいニットが好き」。研究のために海外へ行ったり写真を撮ったりすることが多いためとか。「とにかく飽きのこないものを選ぶようにしているんです。ワンシーズン商品はほとんど買わないので、5年、6年前の服を今でも着ています。二人の姉が東京や外国を持って帰ってくるので刺激になりますね」と三女の映子さん。そんな3人の共通点は『お洒落の基本は自分を知ること』という考え方。海があって開放的でちょっとミイハーでインターナショナルな神戸が大好きという姉妹。久しぶりに揃った3人、ファッションから男性論まで賑やかに話が続いた。



「お互いにトレードして、ファッションの幅を広げています」と三姉妹。

■神戸っ子ベストドレッサーが語る

マイ・ファッション&コウ・ヘファッション

アンドロジナス

先端の両性具有

中村一夫・

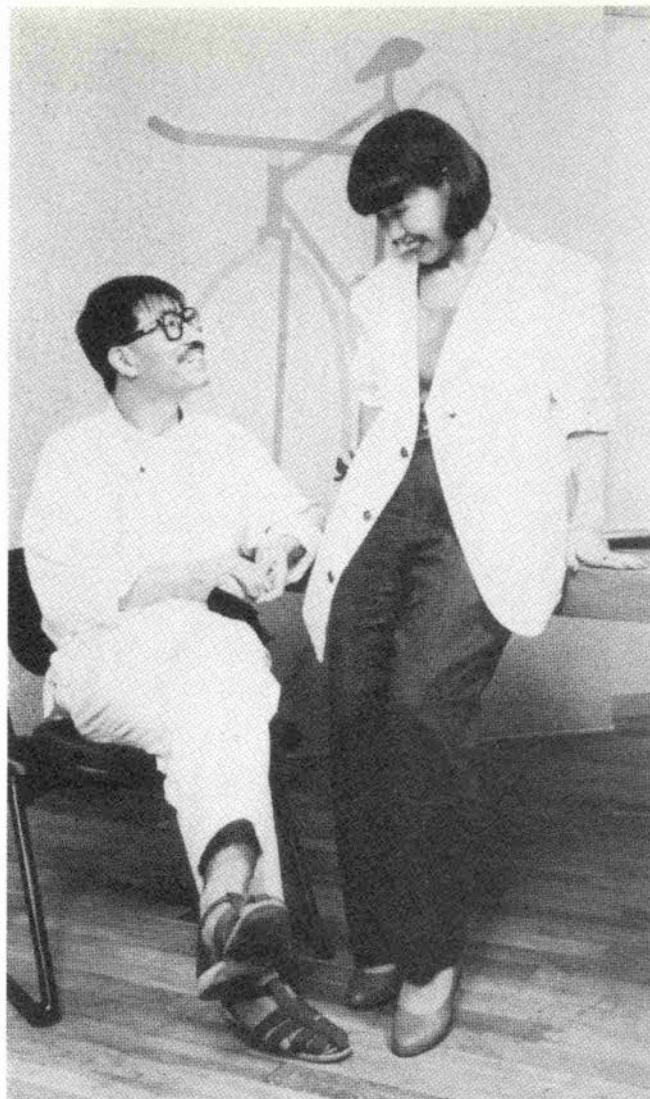
〈デザインディレクター〉
DNA主宰

多喜子夫妻

デザインオフィスDNA(デザイン―ニュー・アート)を構えるデザインコンサルタントの中村一夫さんとマネージャーの多喜子夫人は、結婚以来10年間、衣類はほとんど共有だ。もともと二人共、オーバーサイズ気味のラフなスタイルが好きなので、シャツからセーター、パンツ、コート類にいたるまでメンズを愛用している。購入する時のポイントは、色(茶系は着ない)とデザインが

シンプルなこと。職業柄、素材の良さとか5年後も着れるかどうかを見極める眼は確かだ。「新婚時代は経済的事情もあつたんですが(笑)共有で着てると箆筒で眠ってる無駄な服が無いですね。その上お互いが二人分位の服を持てるわけだから……」そのかわり「あつ、その服今日着よう思ってたのに!」というモメ事はしょっちゅうとか。中村家では四畳半の一部屋をドレスルームにして衣類を全てハンガーに掛けているので各々が着たい服を着る。多喜子夫人の着こなしは、ジャケットやシャツにも肩パッドを入れ、スーツはジャケットとパンツをバラバラにして組み合わせるのがポイント。メンズ感覚の中にも、三十代の女性ならではの雰囲気漂う。

中村氏は「神戸は神戸エレガンスに代表されるように賢くまとまったファッションが多い。これからは、いかに遊び心をうまくとり入れていくか、ですね」と評した。



白いコットンスーツはパンツをご主人が、ジャケットは奥様が、と別々に着こなされる。

■神戸っ子ベストドレッサーが語る

マイ・ファッション&コウベファッション

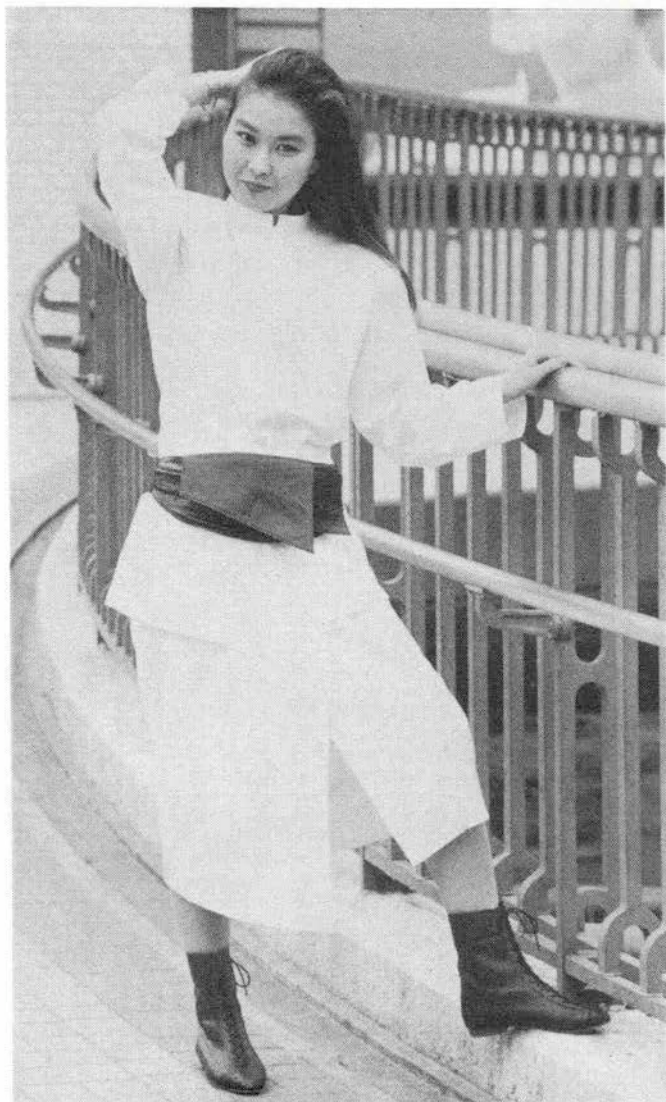
白が着たい！

間野世里子（フティックアルライター勤務）

若手から高年齢層まで、幅広い人気を誇るトレンドイファッション、トレンド（流行のスタイル）な女性には、何処か秘められた魅力があるといわれるが、中でも女性に圧倒的な人気のMOGAをさりげなく着こなしているのは、三宮センター街ブティックアルフィー（山田恭正代表）にお勤めの間野世里子さん。

間野さんの今春のオシャレのポイント、ホワイトカ

ラーに挑戦すること。個性的な間野さんには、今まで「白」はあまりにも透明すぎて疎遠になっていたよう。職業柄、常に流行のファッションが要求されるが、彼女のファッション感覚には、とにかくするどいところがある。「このデザイン、このカラー！」と思えば、同じデザインやカラーのものを購入し、あとから、工夫を凝らした彼女流の着くずしを生んでいくのである。「神戸の女性は、とにかくスマートで綺麗。それは確かに東京のメーカーさんからもいわれること。だけど、もう少し冒険心を持って、自分だけのファッションを創ってほしい」という彼女には、与えられただけの物をつけ、ブランド思考の神戸女性が、少々不満のよう。『自分の良さを自分で理解して、自分で磨いていく。気品が見えてきたところでオシャレが成り立つのでは...』これが彼女のファッション持論である。



ブラウス、ベルト、ボクサーシューズすべて MOGA で決めている間野さん。

■神戸っ子ベストドレッサーが語る

マイ・ファッション&コウ・ベファッション

シンプル神戸

細川雅子(主婦)

春らしくライトでシンプルにまとめたファッションで登場する女は、細川雅子さん。ご主人と一緒にレコード店を営んでいるので、さぞかし流行には敏感だろうと思いきやそういうものには全く無関心で、もっぱら自分自身で着こなせると思った服しか着ないそうだ。だから、今風の新しいデザインの服は、自分に似合わないから着てみたいと思わない。神戸っ子らしいガンコさがちらりと。

服を買う時は、自分の気に入った服が見つかるまで、神戸中をくまなく探し回るそうだが、たいていは母が見つけたお店「OXFORD」で買うという。このお店は高校時代からのごひいきだそうで、シンプルで明るい感じのオシャレができ、エレガントなものからスポーティなものまで揃っているのによく行くとか。

「できるだけ小物でゴテゴテ飾らないで、シンプルにまとめるようにしています。神戸ファッションも全体的にシンプルじゃないかしら。それと組み合わせが上手ね。私もいろいろ組み合せてバリエーションを楽しんでいます」といかにオシャレを楽しんでいる様子がうかがえる。さらに、自分らしさを追求するあまり(?)オリジナルの服を作ってしまうとか。そういう時は、かわいい感じに仕上げるそうです。オシャレに余念のない神戸ギャルです。

△ポートアイランド市民広場にて▽



「シンプルなオシャレを心がけてます」と語る細川雅子さん

■神戸っ子ベストドレッサーが語る

マイ・ファツシヨン&コウベファツシヨン

正統派を貫く

田中 誠
(三菱重工機動務)

派手なものよりは、オーソドックスな型のものを選ぶ。流行に合わせたいろいろ買い揃えるよりは、気に入った良い物を長く着る、というタイプ。

中学生の頃、みんな丸坊主で黒の詰め襟の四月、五月を過ぎて、上着を脱ぎ始め、何んとかく暑気味の違う上級生のボタンダウンのシャツに気がついて「これだ!」と思って以来のアイビー、トラッド派。

「おしゃれというのは、その人に似合っていることが一番だと思われ、神戸のファツシヨンも、流行にのるといふより、それぞれがうまくアレンジして着こなしている人が多い。僕自身はトラッドが一番ビタツとする。」

頑固に、何事にも徹底してこだわるトラッド派に相応しく、着る物はすべて自分で選び、もちろんアンダーシャツも決まったメーカーのものしか着ない。

甲南大学在学中は、テニスに、旅行にと、思う存分飛び回っていた田中さんも、入社五年目を迎えて仕事量も増え、なかなかゆとり選べなくなったものの「良い物には目をつけて、自分が持っている服と合うか、とか熟考の上(笑)買っている」ようで、おしゃれのポイントも最近では会社の決まった上着の中で、唯一個性の発揮できる襟元に置き、ビジネスマンになっても、おしゃれ感度は健在。



今日は、お気に入りのMACの一式で決めた田中誠さん(海岸通りにて)